

永平寺と琵琶湖周辺の史跡を訪ねる歌紀行（3）

長崎史談会名誉会長 宮川 雅一

14、千成亭 中仙道の 御本陣 急階段
に 悲鳴を上げる

本当に 御本陣だったかは聞きそびれたが、しゃぶしゃぶを中心とする食事は美味しかった。いずれ劣らぬ酒豪の平山氏、広瀬氏および中島氏の3人と同席となり、つつい、ビール、日本酒、焼酎を飲み過ぎてしまった。「牛飲馬食」ならぬ「牛食馬飲」というところ。宿泊はホテルルートイン彦根。

15、中仙道 本陣で食う 近江牛 「牛食馬飲」 斗酒を飲み干す

第2日の7日、前日の遅れを取り戻すべく、予定より少し早めの午前8時にホテルを出発し、最初に多賀大社に行く。前に来たことのある原田会長を頼りに、裏道だが近道の細い路地を辿って、大社の正面にある石造りの太鼓橋の前に着く。みんな急な太鼓橋登りに挑戦しているが、当方、坂はもうこりこり、迂回して皆を待つ。

16、石造り 太鼓大橋 敬遠し 安全祈る 多賀大社(おおやしろ)

多賀大社の現在の社殿は、昭和9年(1934)完成した新しい建築だが、椽皮葺きで当時の建築技術の粋を集めて造られた重厚で立派な神社。伊勢神宮に祀られる天照大神の両親、イザナギノミコト・イザナミノミコトを祀る神社であり、「お伊勢参らばお多賀に参れ、お伊勢お多賀の子でござる。」「お伊勢七度、熊野へ三度、お多賀さまへは月参り」と唄われたように、庶民のお参りが多かった神社。絵馬に「家内安全」と書いて納め、しゃもじを記念に求めて持ち帰った。

17、しゃもじ買い 家族が今後 いつまでも 食うに困らぬ 願掛けをする

昨日行けなかった湖東三山のうちの龍応山西明寺

続いて松峯山金剛輪寺へ行く。両寺とも風情ある坂道と古い本堂や三重塔のある気品に満ちた名利



で、しかも紅葉の名所である。国宝・重要文化財の建物や仏像が数多くあり、池のある庭園がまた素晴

しい。一々拝観しては、一寺で一日は掛かるであろう。各寺の立派な図録を買い込み、バスの中で眺めるほかない。

18、湖東には 国宝・重文 並び立つ どのみ仏を 拜めばいいの

西明寺には、来年の干支ウサギのかわいい土鈴と木彫があった。どちらにするか迷っているうちに二つとも買ってしまった。一つは来年年男の弟にやることにする。

19、西明寺 来年の干支 ウサギさん 土鈴と木彫 二つ戴く

金剛輪寺の内陣にはたくさんの仏像があったが、大国主命とは似ても似つかぬ大黒天半跏像と七福神に登場するお姿の大黒天立像があって興味を引いた。袋の形をしたお守りを買って、金運を祈願した。そういえば大黒様はウサギを助けた心優しい出雲の神様。

20 国宝の 金剛輪寺 大悲閣 大黒立像 笑みを湛える

彦根市に戻り、滋賀県護国神社の前を通過して、世界遺産候補で国宝の彦根城に行く。ここにも、滋賀県勤務時代何度か来て、たしか井伊大老の直系曾孫が市長をされていてお目にかかったことがある。さすがお殿様然とした風貌の人物で、奥様は琉球王家のお姫様であった。殿様が座る一段高いところのある座敷や雷の間、地震の間などがある下屋敷が楽々園という料亭になっていて、そこで食事をしたとき貰った杯が手元にあるはず。

21、彦根城 世界遺産に 立候補 琵琶湖を望み 比叡を仰ぐ

大勢の観光客である。その中に混じって、ここでも苦手の急な階段を上り下りしただけで、楽々園の庭園である玄宮園には行かず、もと来た道に戻ってバスに乗り込む。高速に乗り、昼食をする長浜に向かう。長浜は、古い町並みを保存整備して、「まち歩き」で町おこしに成功したところで、食事後街を散策すると、日曜日とあって結構大勢の観光客が街を歩いていた。歩く姿を勝手に記念写真に撮って、千円で売りつけていたが自分はその手には乗らなかった。「龍馬伝」に続くNHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」ブームに期待を寄せているようだ。「お江」は、織田信長の姪、豊臣秀吉の側室お茶々の末妹、徳川二代将軍秀忠の御台所。

(次回に続く)